

インフォーマルセクターという用語は、一九七二年のILO (International Labour Organization、国際労働機関) によるケニア雇用戦略調査報告書をきっかけに広まった。ケニアをはじめ、多くの発展途上国では、地方から都市への出稼ぎ民の流入により都市化が進展している。しかし都市において正規の雇用を見つめることができる者はわずかだ。ILOの調査団は、過剰な都市化による雇用問題は、失業層の増加ではなく、就労貧困層（働いているが貧しい人びと）の増加にあると指摘し、彼らがおこなう零細な自営業や非正規の労働をインフォーマルセクターとよんで注目した。

路上はインフォーマルセクターの仕事場だ。トタン屋根の簡素な屋台でタバコや雑貨を売る露店商。修繕も手掛ける靴磨き。自宅で作ったおかずを販売する惣菜売り。建設現場での日雇い労働。炎天下のなか鉋をかける家具職人……。

これらの零細な自営業者や労働者たちは、発展途上国の経済の重要な部分を占めている。しかし彼らが、政府の雇用統計にカウントされることは少ない。それが、彼らをインフォーマルセクター「非公式」部門とみなす理由のひとつだ。ただし「非公式」は「非合法」と同じではない。インフォーマルセクターのなかには社会的な許容度の低い違法性の高い職種（麻薬販売など）も含まれる。だが、その多くの仕事は法や条令に違反してはいるものの、それに従事する当事者や、彼らから商品を購入したりサービスを受ける多くの市民にとっては、「合法的であ

## インフォーマルセクター Informal Sector

おがわ さやか 立命館大学准教授

やっとわかった！  
人間学の  
キーワード

る」と考えられているものである。

たとえば、路上商人は、道路交通法に違反していたり、法令で定められた営業許可料や税金を払っていない場合が多い。だが多くの市民は、路上商人を公設市場の露店賃貸料や税金を支払うことが困難なだけで、貧しい人びとに手の届く価格で商品販売する普通の労働者であると考えている。

インフォーマルセクターの特色はその参入の容易さにある。たとえば、市場で五円のオレンジを三〇個購入し、ひとつ一〇円で住宅街を売り歩くのに特別な知識や技能、大きな元手は必要ない。ただし誰でもできる仕事は競争も激しい。そのため、インフォーマルセクターの仕事に従事する者たちは、「ひとつの事業に専念するよりも、複数の事業に資本や労働力を柔軟に振りわけるといふ生計多様化戦略を採る傾向にある。どれかの事業が失敗しても、他の事業で食いつないでいけるからである。かつてはインフォーマルセクターとは国の経済成長には貢献しない仕事だとみなされていた。しかし現在では、インフォーマルセクターを機能不全に陥った国の経済システムに代わる豊かな企業家精神の発露とみなし、ボトムアップ型の経済発展の原動力にしようとする見方へと変化してきた。また、発展途上国の鉄くず拾いと国際的なリサイクル市場との関係や、移民の流入や格差の拡大に伴う先進諸国内のインフォーマル経済の進展など、よりグローバルなレベルでインフォーマルセクターを考える必要性が指摘されている。